

生徒の意欲を高めるといった狙いがある。こうした新しい形の「中高連携」は教員にとっても学びの場となりつつあるようだ。(水嶋佑香)

高校教員が中学校に向いて授業を行う動きが、県内で広がっている。高校側にとっては学校の魅力をPRする場となり、中学校側にとっては受験を控えた生

新「中高連携」広がる

男性教諭が、中学生たち
の視線を浴びながら切り出
した。「高校ではこんな授
業をします」。白や青の
カード2枚を生徒に手渡し

「机に置いた白のカードの
裏が白である確率は？」と
投げ掛けた。

10月下旬、赤磐市立磐梨
中の3年B組で数学の授業
を担当したのは瀬戸高(岡
山市東区)の笹埜圭亮教諭。



磐梨中で数学の授業を行う瀬戸高の笹埜教諭(右)。高校の魅力アピールや中学生の勉強への意欲向上につながっている

生徒確保、受験生の意欲向上

く、一歩踏み込んで「生徒の
刺激になるような授業を」と
要望したところ、今年の7月
と10月に公立12校の高校教
員が授業に訪れてくれた。

■ □ 双方の教員にもメリットは
少なくない。

中学校と高校のこうした連
携が増えてきたのは、ここ数
年のことようだ。背景には
少子化で高校側の生徒確保が
難しくなっている事情があ
る。多くの場合、受験前の3
年生が対象で、授業内容は
5教科のみならず、職業選択
などキャリア教育まで幅広
い。

5年ほど前から教員を派遣
しているのは真庭高落合校地
(真庭市)だ。今夏は同市立
の落合中と北房中を訪れ、国
語、数学、英語の授業を実施。
備前緑陽高(備前市)は今年
から理科の実験や美術などの
出前授業を企画し、希望する
中学校を募っている。

磐梨中で授業した笹埜教諭
は、他にも赤磐市の高陽中、
桜が丘中でも指導した経験が
ある。心掛けているのは分か
りやすい授業で高校のPRを
することだけではない。「入
学後に『こんなはずではなか
った』というミスマッチを減
っていくことだと感じている」